

特集
Special

レポート
Report

インタビュー
Interview

エッセイ
Essay

レクチャー
Lecture

オピニオン
Opinion

TOP > [レクチャー](#) > [山下塾第7弾 防災と三助](#) > [山下塾第7弾 第十回講座 4つの備え、帰宅困難時対策](#)

山下塾 第7弾 防災と三助

山下 輝男

第十回講座 4つの備え、帰宅困難時対策

初めに

第十回講座では、非常持ち出し及び帰宅困難時対策について考えます。

4つの備え

舛添前都知事の功績と云われるのが、「東京防災」とのタイトルで都在住戸に配布されたハンドブックであろう。中々入手が困難であったが、埼玉県でも特定書店に申し込みれば購入可能とのことで早速に購入した。その中で、「今やろう 防災アクション」としてスライドのような4つの備えを提唱している。解りやすく理解容易なので紹介したい。

参考:4つの備え(東京防災から)

- 1 物の備え
 - ・ 日常備蓄 ・最小限のアイテム ・備蓄ユニットリスト
 - ・ 非常持ち出し袋の用意
- 2 室内の備え
 - ・ 転倒・落下・移動防止 ・耐震化 ・出火・延焼防止
- 3 室外の備え
 - ・ 居住地・避難先・地形・地域の危険度・身を守る場所
- 4 コミュニケーション
 - ・ 家族会議・防災ネットワーク・安否確認・情報収集

非常持ち出し品の準備

非常持ち出し品は、次のスライドのような考え方で準備すればいいと思います。二次持ち出しの準備を推奨している場合がありますが、何れにしろ、各々の家の特性を考察の上、何をどの程度準備すべきかを検討しましょう。

二枚目のスライドにはその一例を示しています。消防庁の「防災マニュアル 震災対策啓発資料」に掲載されているものです。

http://www.fdma.go.jp/bousai_manual/pre/preparation082.html

非常持ち出し品の準備

1 考え方

避難生活を余儀なくされた場合に支援物資が届けられるまでの間(3日程度)の避難便利グッズ

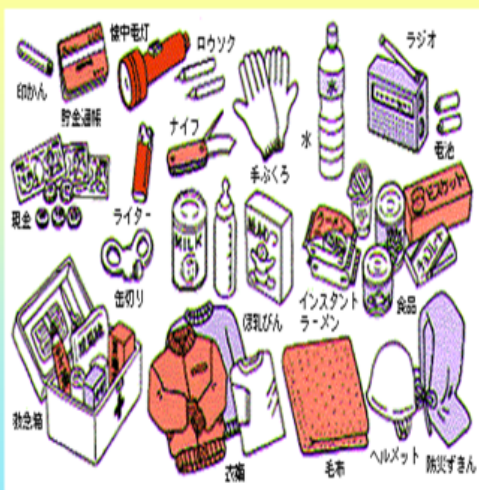
- ・家族の人数分を準備
- ・避難に支障のない重量(男性15kg以下、女性10kg以下)
- ・保管場所:何時でも持ち出せる場所(冷暗所)
- ・全員に保管場所を周知徹底
- ・中身の定期的点検、機能点検、更新
- ・全てのライフラインが停止した場合を考慮
- ・家族構成に対応した準備を(高齢者、女性、乳幼児、ペット等)

○民間業者が防災グッズを販売
詰め込め過ぎ?
絶対的な必需品と
持ち出した方が望ましいものと
区分して自ら判断

○右図は
消防庁防災マニュアルから
チェックリストを活用すべし

○貴重品は非常持出に
常時入れておく?

○二次持出品の準備を推奨して
いる場合もあり。
自宅等の損壊等の可能性を考慮



帰宅困難時対策

帰宅困難者とは、発災時に外出している者のうち、近距離徒歩帰宅者(近距離を徒歩で帰宅する人)を除いた帰宅断念者(自宅が遠距離にあること等により帰宅できない人)と遠距離徒歩帰宅者(遠距離を徒歩で帰宅する人)と定義づけられている。

東日本大震災で私も経験しましたが、大規模地震等が惹起すれば、首都圏等では大規模な帰宅困難者が発生するものと見込まれています。内閣府の推計によれば、平成23年3月11日発生した東日本大震災の影響により、首都圏において約515万人の帰宅困難者が発生したと云う。

また、発生が懸念されている首都直下地震では、帰宅困難者は、1都3県で約650万人うち東京都で約390万人と想定されている。

膨大な数の帰宅困難者等への対応は、色々措置されてきたが、行政機関による「公助」には限界があり、可能な限り「自助」を前提としつつ、「共助」を含めた総合的な対応が不可欠であるとの認識のもと、「大規模地震の発生に伴う帰宅困難者対策のガイドライン」を内閣府が策定し公表した。(平成27年3月)

http://www.bousai.go.jp/jishin/kitakukonnan/pdf/kitakukonnan_guideline.pdf

その基本はスライドの通りである。詳細は割愛するので、ガイドラインで確認して貰いたい。

帰宅困難時の対策

帰宅困難者対策の基本(H27/3 内閣府ガイドライン)

- 一斉帰宅の抑制
基本原則、企業等における施設内待機、大規模集客施設や駅における利用者保護
- 一時滞在施設の確保
指定施設、協定締結施設、発災後3日間の運営
- 帰宅困難者等への情報提供
情報提供体制、災害時帰宅支援ステーション等
- 駅周辺等における混乱防止
対策協議会(地域の行動ルール策定等)
- 徒歩帰宅者への支援
災害時帰宅支援ステーション、対象道路の設定
- 帰宅困難者等の搬送
特別搬送者の搬送オペレーション
- 平時からの取組への啓発

災害時帰宅支援ステーション等

スライドのようなステッカーを確認されたことがあるのではないかと思います。

JR東日本の駅が閉鎖され、髷髷を買ったことがありましたが、その後スライドのように改善されたようです。

- 災害時帰宅支援ステーション
(9都県市とコンビニ協会等協定締結、関西圏でも広がりがつつあり)
帰宅支援者に対し、
・水道水の提供、
・トイレの使用
・各種情報提供(道路、避難所)



都立高校、ガソリンスタンド、コンビニ、ファーストフード店、ファミリーレストラン、居酒屋チェーン等

- 交通機関
JR東日本(HPから)
行政機関提供の一時滞在施設へ移動するまでの一時滞在所を提供(トイレ、公衆電話、所要の情報提供等(スペース、安全上の理由により提供不可の場合あり))

帰宅困難者心得

帰宅困難者心得10か条というものがありますので、それを次のスライドで紹介しましょう。 常時携行した方が望ましい物品として、消防庁防災マニュアルには、懐中電灯、携帯ラジオ、笛・ホイッスル、避難カード、避難用マップが記されています。小生のスマホは、ホイッスルのストラップ付です。スマホは災害時には各種情報を収集し得る便利グッズですので、必要な防災アプリをインストールしておけばいいのではないかと思います。問題は電池ですね。備えあれば、憂いなしです。

参考:帰宅困難者心得10ヶ条(外出中に地震が来てもあわてずに！)

- 1 あわてず騒がず、状況確認
- 2 携帯ラジオをポケットに
- 3 つくっておこう帰宅地図
- 4 ロッカー開けたらスニーカー(防災グッズ)
- 5 机の中にチョコやキャラメル(簡易食料)
- 6 事前に家族で話し合い(連絡手段、集合場所)
- 7 安否確認、ボイスメールや遠くの親戚
- 8 歩いて帰る訓練を
- 9 季節に応じた冷暖準備(携帯カイロやタオルなど)
- 10 声を掛け合い、助け合おう

キーワード▶ [三助](#)・[公助](#)・[共助](#)・[大規模災害対処](#)・[山下塾](#)・[山下塾第7弾](#)・[帰宅困難対策](#)・[自助](#)・[防災](#)・[非常持ち出し](#)

いいね! 0

INDEXへ戻る

次の記事 [山下塾第7弾 第十一回講座 地震直後の行動原則、家庭の防災対策等](#)

前の記事 [山下塾第7弾 第九回講座 自助全般、災害時心理特性、避難](#)

[ページの先頭へ](#)

関連サイト

[防衛省](#)

[統合幕僚監部](#)

[陸上自衛隊](#)

[海上自衛隊](#)

[航空自衛隊](#)